小原力三議員

蓮浄院の修復は心配ないか

小説の世界の物語

問 蓮浄院の修復は必要かということである。

志賀直哉の「暗夜行路」の一節に「予期できなかったのは、米の質が極度に悪いことだった。食うに耐えない米で我慢していると、いつか減食する結果になり身体が弱ってくるように思われた」と書いてある。

さらに平成5年文芸春秋の中で、吉村昭は「実際、私も大山の宿屋に泊まって食事をしたが、米飯のまずさにはあきれた。ボロボロしていてつやも粘り気もなく、志賀直哉が驚いたのは無理もない」と書いてある。

3回も大山の米のまずさを強調している。本を読んだ人たちは勘違いし、旅館にも泊まらず大山観光にも悪影響を及ぼす。風評被害も心配である。

大山町は米作り、観光の町である。

蓮浄院の修復には調査費が200万円もつけてある。

対策はどうとるか。

答 （山口町長）

暗夜行路の最終章の一節に食事に関する記述がある。主人公が大腸カタルで倒れるという結末であり、志賀直哉も伏線をひいていたと記述しており、実際の執筆が大山滞在の24年後であり、大正3年の僧坊での食事でもあり、あくまでも小説の世界の物語と理解をしている。

吉村昭の「私の引き出し」という随筆にも、暗夜行路の一節が引用され、食事のまずさにふれている。

確かに大山にとってマイナスイメージを与える表現であり残念に思う。

この著作は既に絶版になっており今後に与える影響力はないと思う。

対策としては「大山の恵み」である町内の農業者の皆さんが心をこめて栽培した良質な食材を、心を込めてお客様に提供していくことが最も重要であると思う。

町内の宿泊業、飲食業を営む皆さんが、大山町の誇る最高の食材を最大限に利用され、お客様に最高の満足を与え、旅の雑誌等に「大山の食事は最高」と書いていただけるようになることを願っている。

大山口停車場大山線の拡幅を

事業推進を働きかける

問 通称大山道路と呼んでいる、県道大山口停車場大山線は大山口駅と秀峰大山を結ぶ大山地区の大動脈である。道路幅が狭く、大型車の通行が増え、タイヤがはみ出し、すれ違いにはお互い一旦停止しなければならない状況である。

中高地区には歩道もなく歩行やジョギングも危険な状況である。

高田工業団地も相次いで増設され大型車の通行も多くなっている。

早急な整備が必要である。

答 （山口町長）

かつては大山への観光客が大山口駅から大山にあがる表玄関としての観光ルートであった。しかし、米子道開通以降交通量は減少傾向にあるのも事実である。

山陰道が平成19年度に開通し大山道路にも大山インターチェンジが設けられ、姫鳥線、山陰道の全面開通時には再び国立公園大山の表玄関としての観光ルートが脚光を浴び交通量が激増することは想定されている。

当然国立公園大山、町内の観光地へ誘導する仕組みも考えなければならない。

現在、国道9号線の福尾から所子まで大山口停車場線のバイパス工事が施工されアクセス機能は充足される。大山道路では、佐摩地内で二車線化の道路工事が進んでいる。

来年度要望には平木から神原間の拡幅と歩道の設置を既に行っている。

今後、大山インターチェンジ開通に向け大山道路の観光道路としての充足度や観光客の誘致のための検討組織「山陰道大山周辺利用促進協議会」で観光ルートの機能強化に向けた検討を行い、関係機関に対し事業の推進を働きかけていく考えである。

早急な整備が必要な大山道路